

平成27年度受賞パンフレット



“往来”と“all right”

—都市と農山漁村の共生・対流表彰事業—

# 第13回 オーライ!ニッポン大賞



夢の音村「森の公民館」(サウンドファイブ夢の音会)



仙北市農山村体験推進協議会



特定非営利活動法人 夢未来くんま



株式会社エマリコくにたち



公益社団法人 sweet treat 311



「オーライ!ニッポン」とは

都市と農山漁村の間の“人・もの・情報”の往来（おうらい）を盛んにすることで、日本全国が元気（All right）になることをめざす国民運動「都市と農山漁村の共生・対流」のキャンペーンネームです。

## 第13回 オーライ! ニッポン大賞 講評

都市と農山漁村の共生・対流（以下「共生・対流」という。）に関する優れた取組を表彰するオーライ!ニッポン大賞は、第13回を迎えることができました。これもひとえに現場で活動を実践されている皆様のご尽力と、関係7省をはじめ関連団体及び地方自治体等の関係者の皆様の温かいご理解とご支援の賜物であり、この場をお借りして心より敬意と感謝を申し上げます。

政府におかれましては、魅力あふれる地方を創出し、地方への人の流れを創り出す「まち・ひと・しごとの創生」に取り組んでおられます。「共生・対流」とは、都市と農山漁村を相互に行き交うライフスタイルを広め、都市と農山漁村の双方が元気を取り戻すことをめざす国民運動であり、その役割はますます重要になるものと存じます。

さて、今年度は全国からオーライ!ニッポン大賞176件、ライフスタイル賞8件、連携表彰事業4件、合計188件のご応募を頂きました。募集の周知にご協力いただいた関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

今年度のオーライ!ニッポン大賞は、都市と農山漁村の共生・対流の裾野の広がりを実感する応募内容でした。長年の実績を有する中山間地域集落の取り組みから大都市における民設民営で地場野菜の魅力を知ってもらう直売所運営の取り組み、農山漁村生活体験の教育旅行の広域的な取り組み、外国人旅行者の受入、廃校を活用した体験講座を地域の集落が運営する取り組み等、多様な担い手が様々なアイデアにより交流に取り組んでいる様子がわかる内容であり、それぞれの地域資源を上手く掘り起して活用し、都市の学生や企業と連携しながら積極的に交流を図っている事例もありました。

ライフスタイル賞は、都市部からの移住（U J I ターン）や都市と農山漁村を行き来する2地域居住等を通じて個性的で魅力的なライフスタイルを実践しながら共生・対流に貢献している個人を表彰するものです。

今年度は、子育て中の女性が子どものみならず自分のために自然あふれた農山漁村に移住や二地域居住する取り組みが印象的でした。

また、男女問わず、働き盛りの人々が農山漁村を舞台に様々な活動を展開するという、そのバイタリティーを力強く感じました。

こうした人々のライフスタイルは、都市生活者の都市と農山漁村のオーライ(往来)として、田舎暮らしのモデルとして、大変参考となると思います。

審査委員会における選考の結果、オーライ!ニッポン大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）1件、オーライ!ニッポン大賞3件、フレンドシップ大賞1件、審査委員会長賞5件、フレンドシップ賞3件、ライフスタイル賞3件の計16件を選定いたしました。

グランプリに輝いた「夢の音村「森の公民館」(サウンドファイブ夢の音会)」(鳥根県浜田市)は、音楽をキーワードに47年間の長きにわたり、自らのステージ活動や著名なアーティストの公演企画のほか、手作りでもちの人が楽しめる林間交流拠点施設を整備することにより、都市との交流による地域づくりも行っている点が高く評価され、今後のさらなる発展も期待されます。

その他の受賞者の皆様に対するコメントは、受賞内容をご紹介する各ページに記載させていただきましたのでご覧ください。

惜しくも受賞を逃された皆様の中にも魅力的な取組も数多くございました。今後、さらに実績を積み重ねて次回以降に再度ご応募いただきますよう、心からお待ちいたしております。

最後に受賞者の皆様をはじめ、すべての応募者の皆様にこれまでの共生・対流に対するご尽力に感謝申し上げますとともに益々のご活躍とご発展を祈念いたしまして講評に代えさせていただきます。

平成28年3月4日

オーライ!ニッポン大賞 審査委員会  
会長 安田 喜憲

# 第13回オーライ！ニッポン大賞 受賞者一覧

## オーライ！ニッポン大賞グランプリ

1 島根県浜田市  
 夢の音村「森の公民館」(サウンドファイブ夢の音会)

## オーライ！ニッポン大賞

2 秋田県仙北市  
 仙北市農山村体験推進協議会

3 東京都国立市  
 株式会社エマリコにたち

4 静岡県浜松市  
 NPO法人夢未来くんま

## オーライ！ニッポン フレンドシップ大賞

5 宮城県石巻市  
 公益社団法人 sweet treat 311

## オーライ！ニッポン フレンドシップ賞

6 広島県庄原市  
 庄原市高野地域づくり未来塾

7 岡山県倉敷市  
 倉敷まちなか居住『くるま座』有鄰庵

8 熊本県阿蘇市  
 公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター

## オーライ！ニッポン大賞審査委員長賞

9 青森県八戸市  
 八戸市青葉湖展望交流施設  
 山の楽校運営協議会

10 千葉県成田市  
 島田建設株式会社

11 石川県白山市  
 木滑里山保全プロジェクト

12 兵庫県神河町  
 かみかわ田舎暮らし推進協会

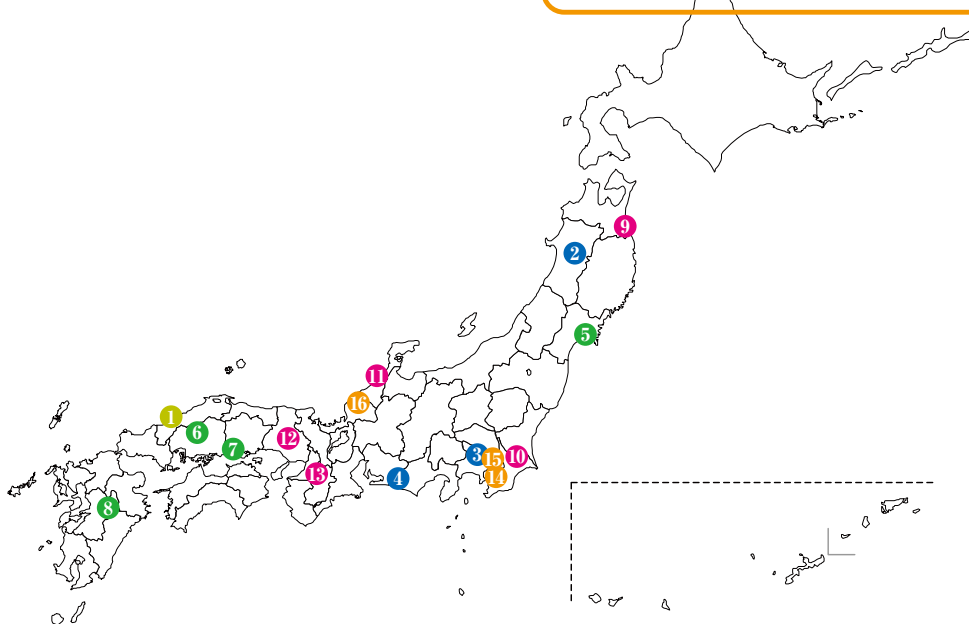
13 奈良県三郷町  
 (株)農業公園 信貴山のどか村

## オーライ！ニッポン ライフスタイル賞

14 千葉県木更津市  
 山野 晃弘

15 東京都世田谷区  
 馬場 未織

16 福井県福井市  
 伊藤 弘晃





# オーライ! ニッポン大賞グランプリ

ゆめ ねむら もり こうみんかん  
夢の音村「森の公民館」(サウンドファイブ夢の音会) (島根県浜田市)

内閣総理大臣賞



## ■受賞者の概要

活動年数：47年  
活動日数：年間365日  
活動エリア：島根県浜田市金城町  
活動を担う人数：42人（うち専属スタッフ12人）  
参加者数：年間森の公民館等集客利用5,451人うち宿泊986人

## ■写真の説明

- ・(写真上)1968年以来住民参画のムラの文化交流は47年間継続。
- ・(写真右下)1996年からは、林間交流拠点・森の公民館等整備。
- ・(写真左下)「森の中のマーケット」イベントを開催し2600人を集客。

## ■受賞の内容

夢の音村「森の公民館」(サウンドファイブ夢の音会)は、1968年から47年間にわたり音楽による地域づくり活動に取り組む町内の音楽活動団体サウンドファイブ夢の音会により誕生した林間交流拠点である。

サウンドファイブ夢の音会の音楽活動は、1968年当時高校生だった現在の会長の河野文影氏等同級生の音楽好きの仲間5人による音楽バンド、ファイブシャドーズが原点。高校を卒業後、地元を中心にライブ活動を続けたものの一度は解散、1972年にサウンドファイブとして再結成。地域のイベントに出演するほか、はしだのりひこさん、坂田明さん、岡林信康さん、森田公一さん等著名なミュージシャンを招く音楽イベントのプロモートも行った。1997年には堀内孝雄さんのコンサートを企画し超満員の大成功をおさめ、地域の皆さんと共に良い音楽を楽しみたいという思いが通じたことに大きく感動し、さらに地域の役に立ちたいという思いを強くした。

このため夢の音会では、農山村地域が抱える様々な課題に対応するため「音楽」をキーワードに青年世代の結集を進め、まちの人が楽しめる交流空間づくりを目指して音楽ホール、スタジオ、キャンプ場などの林間交流拠点の施設整備を1985年から進めてきた。さらに、都市農村交流を行うために「森の公民館」を1995年に整備した。



森の公民館は開館以来20年独立採算での施設運営を行い、平成26年度には「ゆめのねむら」都市農村交流推進協議会を設立、年間利用者約5,400人、宿泊者約1,000人の新たな交流を生み出す取り組みに成長した。また、車で20分の距離にある海辺の民宿や広島市中心地のライブハウスと「施設間協力協定」を締結し誘客や情報発信などの相互補完協力を行うほか、東京都中目黒の小さなお食事処との「食」の研究及び誘客・情報発信における「協力協定」締結など、多方面との交流や連携を進めている。

大型の公演企画・運営にあたっては、200人の実行委員会を組めるネットワークを有し、すべての企画を手づくりで行っている。堀内孝雄さんなど招いた著名人37組に夢の音村『名誉村民』の称号を贈り、市民との交流企画を実施している。「森の公民館」の初代館長に森田公一（作曲家）を登用。以後、佐々木愛（女優）、白井貴子（シンガー）、ポニージャックス（コーラスグループ）、芦原すなお（直木賞作家）の各氏が無報酬で就任。現在は六子（シンガー）に引き継がれている。

これまでに150回を超える自らのステージ活動や40回近いミュージシャンを招くプロモート活動など、町民の文化的要求に応える47年間の音楽活動は、多くの住民の認知を得るとともに高い評価を受けて町の“顔”として定着している。



47年間にわたり、自らのステージ活動や著名なアーティストの講演企画のほか、まちの人が楽しめる交流拠点を整備。音楽をキーワードに、農山漁村の環境や資源を活用しつつ都市との交流等による地域づくりを行っている点が高く評価され、今後、多様なネットワークを活かしたさらなる活動の発展が期待されます。



# オーライ! ニッポン大賞

せん ぼく し のう さん ぞん たい けん すい しん きょう ぎ かい  
仙北市農山村体験推進協議会

せん ぼく し  
(秋田県仙北市)



## ■受賞の内容

仙北市は、2005年9月20日に旧田沢湖町、旧角館町、旧西木村が合併し誕生した。

仙北市農山村体験推進協議会は、市内を修学旅行で訪れる学校が増加する中、生徒の農業体験受け入れを契機に、農山村体験受入促進やグリーン・ツーリズム推進を目的として2009年に発足した。農家民宿等が加盟している地域の受入3団体（NPO法人田沢湖ふるさとふれあい協議会、たざわこ芸術村、グリーン・ツーリズム西木研究会）等も協議会に参画し、地域の活動が一本化された。

協議会では、①農山村体験活動の安全衛生や料理、宿泊者対応等の勉強会・講習会の実施による農家民宿レベルアップに関する取組 ②農家民宿の新規開業者に対する支援や取組 ③国内教育旅行の受入に関する旅行会社や学校との調整 ④農山村周遊型イベント（「農村で楽しむ仙北は♡あーと展」等）の実施 ⑤農家レストラン振興に対する取組「そばタベクラベ」イベント（仙北市内で栽培されている種類のそばを品種ごとに食べくらべ）等の実施 ⑥台湾等の外国人学生の団体旅行の受入に関する調整 等を



## ■受賞者の概要

活動年数：8年

協議会の加盟団体：17団体

年間参加者：教育旅行 1万5,500人

農家民宿：11軒 農家民泊16軒

## ■写真の説明

- ・(写真上)受入農家による農業体験(田植え作業)。
- ・(写真左下)教育旅行受入(伝統工芸の制作体験)。
- ・(写真右下)農家と一緒に農作業体験をする外国人。

実施しており、仙北市の農山村を訪れる観光客や教育旅行の生徒数は増加傾向にある。

近年は、東南アジアからの外国人観光者が増加しており、その動きが新聞・雑誌にも多く取り上げられている。外国人の受け入れは、言葉や人種、生活習慣が国内旅行者と異なるが受け入れ経験を積むことで外国人への対応は自信を持ち始め、経験を積むことで市場の広がりにもスムーズに対応できるようになっている。

外国人の来訪は地域の国際理解への高まりのほか、高齢化が進む農村に新鮮な空気を吹き込み、地域の子ども達が広い視野を持った将来の担い手となることに大きな期待が寄せられている。

最近では農家がフェイスブック等で受入後も外国人と連絡を取り合う様子も珍しくない状況となっている。

農山村宿泊体験受入団体は観光関連団体やJA・行政機関とも連携し着実に実績を上げ、東北で屈指のグリーン・ツーリズム先進地として行政視察も多く、他地域のモデルとなっている。



農山漁村の資源を活かした教育旅行の受入や農家民宿の新規開業支援、体験活動の安全管理など交流事業の中間支援事業を担い、国内外からの多くの旅行者の受け入れを行っている。構成団体と連携して農山漁村体験により地域の活性化をリードし、他地域のモデルとなっている活動は高く評価されました。



# オーライ! ニッポン大賞

## かぶ しき かい しゃ 株式会社エマリコくにたち

くにたちし  
(東京都国立市)



### ■受賞の内容

エマリコくにたちは農業活性化を目指すソーシャル・ベンチャーとして若者3名が2011年に起業、営業に係る資金は各自の貯金と金融機関からの借入れで調達した。代表の菱沼社長と渋谷副社長は大学の経営学科を卒業後、ビジネスになり得る地域活性化のため、都市の農業・農地を次世代につなぎ高齢・若年を問わず都市農業者がやりがいを持てる販路を生み出すために「東京に住みながら、毎日の食卓に朝どれ野菜を。」をキャッチフレーズに、都市型農産物直売所等を開設した。

会社名の『エマリコ』とは、「縁」を作り、「街」を育て、「利」を生み、社会に「貢献」するを意味する造語。都内に元気な農業・農業者を残すことで1次産業と都市生活者を物理的かつ情緒的に結び付け、その結果、新しいライフスタイルを提案し、都市生活者（東京の市民）のあいだに農業の理解者や支援者を増やそうとしている。

活動エリアの国立・国分寺・立川・日野には農協による共同出荷機能がなく、高齢者を含む農業者がやりがいをもって出荷できる販路が求められていた。

このため、エマリコくにたちは4市の農家80軒をネットワーク化した駅前型直売所事業や飲食店事業を運営してい

### ■受賞者の概要

活動年数：4年

活動日数：年間365日

活動を担う人数：40人（うち専属スタッフ10人）

売上実績：年間1億4,500万円 累計3億5,500万円

### ■写真の説明

- ・(写真上) 西国分寺駅構内のにしこくマルシェ「しゅんかしゅんか」。
- ・(写真左下) 日に約40～50軒の農家をまわり新鮮な農産物を集荷。
- ・(写真右下) 農業を身近に感じてもらう。収穫体験イベント「つむぐば」。

る。駅前型直売所は3店舗を展開するほか、国立市内に飲食店（ワインバル）、日野市内のスーパー内に地場野菜コーナーを設け、計5か所の販売拠点がある。補助金に頼らない民設民営を旨とし都市部の高家賃の施設を借りても黒字化を達成している。

駅前型直売所事業は、同社の自動車農家まで集荷に回っている。これにより①自動車の運転ができない高齢の農業者でも出荷でき、生産量がおおよそ倍になった高齢農業者も存在 ②農業者がいくつもの直売所やスーパーに納品に回る必要がなく、農業生産や農業技術の習得に集中することが可能 ③集荷に回る当社スタッフが農業者に消費者の声をこまめに伝えるというアナログ的な取り組みが、単なる出荷とは違って大きなやりがいを農業者に提供 等の効果をもたらしている。

同社は委託ではなく全て買取りとする独自モデルを生み出すことでPOPから接客、値付け、広告宣伝に至るまで常に真剣に取り組み、農業者が想いを込めて作った農産物を無駄にしないよう努めている。その結果として売上も年々向上している。将来的には東京のほぼ全域に活動を広げる構想を持っている。



新たなビジネスモデルを作ろうと若者が農業周辺ビジネスに参入し、「縁」をつくり「街」を育て「利」をうみ社会に「貢」献するという意味の自ら名付けた「エマリコ」の活動を実践し、自社による集荷方式は、他地域でも大変参考になると高く評価されました。



# オーライ! ニッポン大賞

とく てい ひ えい り かつ どう ほう じん  
特定非営利活動法人

ゆめ み らい  
夢未来くんま

はままつし  
(静岡県浜松市)



## ■受賞の内容

林業の衰退とともに過疎化が進んだことから、「このままでは故郷が埋もれてしまう」と地域のみんなで夢を語り合った結果、女性達が手作りや昔の食文化の良さを地域外の人に知ってもらおう活動をしようと提案がまとまり、1986年に女性達が参画する全戸加入の村おこし「熊地区活性化推進協議会」を発足した。

夢未来くんまでは、4つの部で村おこし活動を行っている。

①水車部は、道の駅を管理・運営。「かあさんの店」でのそばを中心とした郷土色豊かな食事の提供、「水車の里」でのそば、みそ、こんにゃく、まんじゅう、梅干し等の手作り加工や体験教室の開催、「ぶらっと」での水車の里や地区内で製造した商品や木製品などの販売。

②しあわせ部は、月に1回、熊地域の各集落に出かけてふれあいサロン「どっこいしょ」を実施。給食サービス、独居高齢者宅を中心に安否確認を兼ねて弁当を月1回配達。

③いきがい部は、グリーン・ツーリズムを交流促進、移住向けの「お試し住宅」や農家民宿を開設するほか、新茶を味わう会（5月）、ほたる鑑賞（6月）、サマーデー（8月）



## ■受賞者の概要

活動年数：29年（内 前身の活動20年）

活動日数：年間310日

活動を担う人数：532人（うち専属スタッフ22人）

売上実績：年間6,750万円 累計18億2千万円

来訪人数：道の駅 年間7万9,850人 累計203万人

## ■写真の説明

- ・(写真上)「かあさんの店」テラスも客席として活用。
- ・(写真左下)生きがいサロン「どっこいしょ」一日の風景。
- ・(写真右下)移住定住の推進、田舎暮らしツアーを実施。

など季節ごとに様々なイベントも実施。さらに浜松市の大学生が地域活性化を学ぶため、商品開発（バームクーヘンやそば汁粉など）やイベント（大寒謝祭2月）を実施。

④ふるさと部は、子供達への体験型の環境教育である「くんま水辺の活動」として「ほたるの学校」や「熊平川遊び」「棚田ウォーク」を開催。

こうした活動は中山間地の女性が外で働く喜びや苦勞、社会と繋がる意味を知り、地域住民の生きがいと郷土意識を醸成するなど大きな成果を上げてきた。また活動を体験し楽しさに感動した結果、都会から移住した人も多い。

熊地区のほぼ全ての商店や飲食店が廃業する中、夢未来くんまの各施設は元気に続いている。交通量がほとんどない山の街道にあっても、旬の食材を使った食事、元気で明るい母さん達のおもてなしに惹かれて施設に立ち寄るドライバーからの口コミでバイクの利用者や他県からの来訪者が増えている。

女性達の活動が収益を生み出したことにより、家庭内での男性の女性に対する意識も変わっている。



へき地の山村集落を活性化しようと全戸加入、女性が主体となって村おこしに取り組みはじめて約30年。農業・農村の生活文化を提供しつつ、地域内の独居老人への配慮や移住者向けの「お試し住宅」など常に新たな課題に対応する姿勢が高く評価されました。



# オーライ! ニッポン大賞 審査委員会長賞

はちのへし あおぼこ てんぼう こうりゅう しせつ やま がっ こう うん えい きょう ぎ かい  
八戸市青葉湖展望交流施設 山の楽校運営協議会 (青森県八戸市)

農山漁村イキキ実践部門



## ■受賞者の概要

活動年数：11年

活動日数：年間310日

活動を担う人数：20人（うち専属スタッフ8人）

売上実績：年間783,968円 累計約770万円

参加者数：年間50,591人、年間体験講座参加者4,864人、  
累計25万1,080人

## ■写真の説明

- ・(写真上) 山の楽校と仲間たち。
- ・(写真左下) そばとひまわりまつり。
- ・(写真右下) 焼畑農園火入れ。

## ■受賞の内容

青葉湖展望交流施設（通称：山の楽校）は、廃校を活用した交流施設である。山の楽校では、地域住民とともに子どもからお年寄りまで、地元南郷の特産でもあるソバを使ったそば打ち体験や手仕事の生活用具の製作等が体験できる。

活動のきっかけは、地区内の旧増田小中学校が廃校となったのを逆にとり、地域の未来展望に向け地域一丸となり活性化を図るために65戸の全戸が参加した運営協議会を2005年に立ち上げたことである。

協議会では年間の活動スローガン「田舎っていいよなあ！」を掲げ、以下の五本柱の下で事業内容を展開している。

①食育の推進 ②農育の推進 ③昔の伝統文化の継承 ④新しい文化の創造 ⑤あしたの楽校（山の楽校が南郷の文化、四季、言葉や習慣など南郷のよさを「あした」に向かって伝えていくプロジェクト）の立ち上げ。

今や体験内容はそば打ち、てんぼせんべい、梅漬け、彼岸団子作り、そば田んぼの栽培養成、焼畑農業などに広がり、そのほか地元の財産である人や地域資源を生かし年間

60講座と7つの大きなイベントを企画している。また、地元産山菜、野菜を農家レストランで提供するなど、田舎の知恵を活用した食事は来場者に大変喜ばれている。

山の楽校は今や市、県内はおろか県外客からも親しまれる施設となり、年間利用者数も右肩上がりが増えており、地域外から人の来訪に地域の人々も刺激を受けている。

こうした活動の成果として、加工グループで加工品（豆腐、味噌等）を製造販売するにあたり、原料となる大豆等を地域の農家（生産者）と契約栽培し購入するほか、保存食文化を生かした干し菜、りんご、干し柿等の製造販売は地元で経済波及効果をもたらしているほか、実証し7年目になる焼き畑農業では、そこで採れた野菜、大豆、そば粉等を加工品にして、製造・販売している。

山の楽校は市内中心部から30分～40分の至近距離にありながらいきなり田舎を体験できる好立地条件にあり、心のやすらぎ、憩いの場として最適であると自信をもっている。このような恵まれた自然環境と昔から培ってきた田舎の文化、知恵を、自らできることを最大限に生かしながら楽しんで発信することにより、人々のつながりが生まれ、ひいては地域の活性化が図られることを確信している。



廃校となったことを契機に小さな集落65の全戸で運営委員会を立ち上げ活動しており、五本柱の事業方針も明確で年間60講座、七つのイベント企画、参加者数、活動日数などいわゆる限界集落のなかでの取り組みとしては効果的に継続されていると評価できる。



# オーライ! ニッポン大賞 審査委員会長賞

しま だ けん せつ かぶ しき かい しゃ  
島田建設株式会社

なり た し  
(千葉県成田市)



## ■受賞の内容

島田建設の歴史は1907（明治40）年の材木業創業（千葉県旭市）まで遡る。社長である島田氏は公共事業の受注が主体の建設業者の経営者として、もっと社会の役に立つ事は何かと考えて2000年4月1日に介護ショップを開店した。さらに健康長寿の手段として2002年に「園芸デイサービス」をオープンさせた。

島田氏はボランティア活動に参加するなど、もともとこの分野への関心が高かったこともあるが、老人ホームの建設工事や介護が必要な家庭のリフォームなどの仕事が増えたことから、社会に役立つには介護分野の取り組みが大事だと考えたという。

多くの施設がコンクリートで作られた殺風景な雰囲気であることから、元気を出すには土に触れるのが一番であるという考えから園芸療法を導入したデイサービス施設である「園芸デイサービス」を自ら開業した。

園芸デイサービスでは通常の入浴・体操・個別のリハビリ・お茶などの他に、通所者が周辺の畑で農作業や草花の手入れを行うメニューを取り入れて、健康増進に役立っているのが特徴である。



## ■受賞者の概要

活動年数：13年

活動日数：年間250日

主な活動エリア：千葉県成田市、山武市、旭市

参加者数：年間約7,500人、累計約5万人

## ■写真の説明

- ・(写真上) 園芸療法の様子をNHKが取材。
- ・(写真左下) 福祉園芸講習会やセミナーを定期的に開催。
- ・(写真右下) 近隣の小学校の子供達と共にさつまいもを収穫。「園芸デイサービスうなかみ」の農場「ガーデン花子」。

園芸デイサービスの農場では、近隣の小学校と収穫体験を実施するなどの交流も生み出している。

最初の園芸デイサービスうなかみは2002年12月1日オープンした。以降これまでに千葉県内に計6か所が開設されている。園芸デイサービスの活動は、メディアにも広く取り上げられ、注目された結果農作業に興味を持つ入居者が増えている。園芸療法を広めるためには人材の育成が重要であることから、農を活用する園芸療法勉強会（理論と実習）を立ち上げ、これまでに千葉県成田市、八街市、千葉市、船橋市、柏市で36回開催している。

また、園芸福祉に関するセミナーやシンポジウムを60回以上開催し、2004年には千葉県の事業で千葉大学と園芸療法の研究を始めた。この活動を継続するためにNPO法人園芸療法勉強会を立ち上げた。

今後は、園芸デイサービスが併設された『サービス付き高齢者向け住宅』の第1号を香取郡神崎町に建設し、地方の人口減対策、高齢者や障害者の福祉対策、農業振興のための「農と福祉の郷」をつくる社会貢献事業を進めていきたいと考えている。



園芸デイサービスの開設に加え、千葉大学と園芸療法の共同研究を始めるためにNPO法人園芸療法研究会を立ち上げ、セミナー、シンポジウムを開催するなど異業種の取り組みとして大きな期待が持てる、新規性、モデル性の面から先進的な取り組みとして世に広めたい事例である、と高く評価されました。



# オーライ! ニッポン大賞 審査委員会長賞

## き なめり さと やま ほ ぜん 木滑里山保全プロジェクト

はくさん し  
(石川県白山市)

農山漁村イキイキ実践部門



### ■受賞の内容

2009年に白山市木滑地区が石川県の7つある先駆的里山地区の1つに認定されたことをきっかけに、里山の生活、文化を広く認知してもらうことによる交流人口拡大を目指して民間企業と連携して2010年より活動を開始した。

耕作放棄地の拡大や20年後には集落ごと消滅するかもしれないという危機感のもと、2011年の冬に里山祭「山笑い」を開催した。「山笑い」は地元猟師が先生となりかんじきを履いて山を歩く「かんじきウォーク」、「わらざうり作り」、「巨大滑り台」や里山料理の並ぶ「神社市」など里山の文化、資源を活かしたお祭りイベントである。それから毎年、春には耕作放棄地を再生した水田に餅米を手植えし無農薬で栽培、秋には鎌で収穫・ハサ干し、冬には餅つき大会を行うなど、集落の方々が先生となり色々な話をしながら参加者が里山の生活、文化、歴史を知ることができている。

外部の企業からの呼びかけで発足したプロジェクトであったため最初は警戒する地域住民もあり、集落には何もできないう意見が多かった。

しかし、木滑の環境や技術を多くの人が素晴らしいと言い、集落内の昔話や手作業に感動するなど外部から評価されることで、住民自身の誇りと自信が醸成された。現在で



### ■受賞者の概要

活動年数：6年（前身の活動を含めて7年）

活動日数：年間60日

活動を担う人数：集落人員125人（うち専属スタッフ21人）

売上実績：年間95万円 累計600万円

参加者数：年間1,500人、累計約 9,000人（いずれも延べ数）

### ■写真の説明

- ・(写真上) 盆踊り「あさんがえし」の復活。
- ・(写真左下) 耕作放棄地を再生して、田植えを行う山笑い。
- ・(写真右下) 古民家でのジビエ料理（獣害猪肉）の試食会。

は、地域外の方が熱心であることで住民も何かをしなければという意識が強まり、最初は遠くから見ていただけの住民も何らかの形で「山笑い」で役割を持つようになっている。

他にも幼稚園児の親子、大学生、住民が共同で農作業を行う世代間交流、荒廃が進む裏山を管理・整備する間伐や登山道整備をイベントとして開催するなどにより、住民と一緒に汗をかき、一緒に食事をして話しをするといった交流も生まれている。

また、他地域への視察により刺激を受けて、里山の伝統料理や野菜を販売する活動が始まり、山の仕事の衰退で近年は入ることが少ない山に入るようになった結果登山道が復活したほか、各大学との連携事業も生まれている。

そんな時にテレビ局が一年間、木滑の番組を月に一度放送した。何がしたいかもわからなかった小さな里山集落で様々な交流が生まれ、それぞれの役割と目標が見えたことが多くの方に伝わった。これをきっかけに若い夫婦が都市部から移住し、専業農家を目指して生活を始めるようになった。

今後も、通年で気軽に訪れ里山の生活を体験、体感できる場所にするにより、日本の里山の自然と共に生きる豊かな社会作りに貢献したいと考えている。



限界集落といわれるような山村集落でも、地域の人々が本気になれば自然、文化、人的資源により地域の活性化は可能であり、地域活性化に取り組む人々が自信をもてる、元気な事例として高く評価されました。



# オーライ! ニッポン大賞 審査委員長賞

## かみかわ田舎暮らし推進協会

(兵庫県神河町)



### ■受賞の内容

神河町は兵庫県のほぼ中央に位置し、2005年に神崎町と大河内町が合併し誕生した。姫路市まで約40分、京阪神まで約1時間30分。町の8割を山林が占め、1,000m級の山々に囲まれた有数の高原地帯である。

かみかわ田舎暮らし推進協会は、町が実施する「空き家バンク・空き土地運営」の側方支援組織として、不動産業者、建築業者、都市農村交流団体、地域住民代表などが結集し、各々の役割分担しながら都市住民の移住を進める総合的な体制を確立しようと2010年に設立した。また、同協会では各集落への田舎暮らし相談員の配置、空き家再生講習会、移住・起業促進事業等も実施している。

町の空き家バンク・空き土地運営は2015年度中には成約数が100件に到達する見込みとなっており、兵庫県下でもトップクラスの成約数、移住実績を誇り、定住促進を図ろうとする自治体からの視察研修が年々増えている。

その他、空き家を利活用した体験施設を2件、交流施設を6件開業し、神河町全体としての交流人口は約年間70万



### ■受賞者の概要

活動年数：5年（前身の活動を含め7年）

活動日数：年間30日（講習会、利活用セミナー等：平成26年度）

イベント参加者数：1,900人（延べ人数：平成26年度）

移住者：140人（空き家バンク利用者のみ：平成26年度末現在）

### ■写真の説明

- ・(写真上) 都市部の方が参加している空き家再生講習会。
- ・(写真左下) 空き家利活用セミナー【参加者で意見交流会】
- ・(写真右下) 建築職人養成学校の実習風景。

人を誇っている。

田舎暮らし相談員は空き家の調査や移住者の相談役としての役割を果たし、移住者からは田舎暮らしを始めるにあたって不安が払しょくされて、相談員のおかげで地域に溶け込むことが出来たと感謝されている。

空き家再生講習会では、都市部からのボランティアを対象にした改修作業を講習しているが、毎年希望者が多くキャンセル待ちの状況が続いている。講習会では、地元職人から家のつくりや修繕ポイントなどを学びながら、全2回にわたって空き家の改修を行う。初心者や女性の方も多く参加されている。参加費1,500円(昼食代他)、定員20名(先着順)となっている。

また、空き家を改修したお店が次々とオープンし、既に10店舗以上となっている。いずれのオーナーも神河町外からの移住者であり、町内の食材を活用してメニュー開発されたタイ料理、イタリア料理、薪釜パン、うどん店、蕎麦店、インド料理などの飲食店や雑貨店、リラクゼーションなどを経営することにより神河町に新しい風を吹かせている。



人口減少が議論される中で「空き家・空き地」は全国的な課題となっています。都市部からのボランティアを募っての空き家の改修作業、移住者と地元のつなぎ役としての田舎暮らし相談員制度などは、他地域でも参考になる取り組みであると高く評価されました。



# オーライ! ニッポン大賞 審査委員会長賞

かぶ しき かい しゃ のう ぎょう こう えん  
株式会社 農業公園

し ぎ さん むら  
信貴山のどか村

さん ごう ちょう  
(奈良県三郷町)

農山漁村イキキ実践部門



## ■受賞の内容

信貴山のどか村は、奈良県と大阪府にまたがる生駒山地の信貴山の標高350mに位置する40ヘクタールの広さを持つ農業公園である。全国3番目の農業公園として1987年に設立、1992年から営業を開始した。当時、農業を継ぐ者が少なく地域の農地が荒れていたことから、地域の農業を守るために「観光と農業」を結び付ける事で集落が一致して活動を始めた。開園以来のキャッチコピーは「心豊かな自然と食を体感しませんか!」。

集落での話し合いを通じて、集落全戸約40余りの農家が社員となり有限会社として出発した。会社形式にしたのは、公に頼らず自分たちで経営に責任を持ち自ら生産・販売活動を行い、利益を分配する事を考えたからである。

以来、地域の野菜や果樹を育て、来場するお客様に「味覚狩り」を楽しんでもらうと同時に、農業公園で一日中楽しんでもらうために、フラワーパーク、アスレチック、ミニ動物園、デイキャンプ場等併設としている。体験教室としては、こんにゃく教室・そば打ち教室・ソーセージ教室を開講。このような取組により都市と農村の交流を図りな



## ■受賞者の概要

活動年数：28年

活動日数：年間275日

活動を担う人数：60人（うち専属スタッフ20人）

売上実績：年間2億6,438万円（2014年度） 累計59億582万円

参加者数：年間約14万3,715人（2014年） 累計346万1,783人

## ■写真の説明

- ・(写真上) 芝生広場。
- ・(写真左下) サツマイモ掘。
- ・(写真右下) 子ども餅つき大会。

がら農業の魅力を伝えている。

のどか村が提供してきた食事や体験、加工品等は、6次産業化の取組の先駆けと言えるが当初から意図していたわけではなく、生産物の余剰品を無駄にしないなど経営を考えた結果である。また、外部のものを利用すれば利益がでるが、のどか村で生産された農産物にこだわり提供している。また、石窯ピザも釜を職員が手作りで作るなど、何でも自分たちで工夫することに努めている。

のどか村で生産された農作物は野菜の収穫体験、販売コーナーでの直売、レストラン、バーベキュー等のどか村内での消費・販売の他、学校給食や産直市にも出荷されている。

農業体験で人気となっているのは、鶏舎に入り、自分で卵を採りかまどで炊いたご飯にかけて食べる「天空卵かけご飯」。屋外に設置されたかまどに薪をくべて炊き上がったご飯の釜の蓋をとると湯気が立ちのぼり歓声があがる。

観光施設間の競争が激化した時も参加型体験や女性向けのメニュー作りなど、知恵と工夫で客数が落ちることなく黒字経営を続けている。



地域の農業を継続するために、観光と農業の連携による農業公園を28年継続して運営。自ら加工品も生産・販売し、季節ごとに花や味覚狩りが楽しめるなどの工夫により多くの都市生活者のリピーターを作っており、地域の農業を守り、雇用も生んでいる点が高く評価されました。



# オーライ! ニッポン フレンドシップ大賞

こう えき しゃ だん ほう じん

公益社団法人 sweet treat 311

(宮城県石巻市)



## ■受賞の内容

公益社団法人 sweet treat 311 は、東日本大震災で被災したこどものケアと学習の機会を設けるために有志により設立。代表は立花 貴氏。現在は、石巻市雄勝町を拠点に地域資源を活かした学びの場を創造、漁師や地域の方々と協働で運営し、全国だけでなく世界各国から人が訪れている。

“sweet treat 311”という名称には、「優しい心のケアを」という想いが込められている。

活動当初は震災直後から石巻市や女川町などを訪れ、炊き出しなどの支援活動を行っていたが、2011年6月には一般社団法人を設立し、被災したこどものケアと学習支援活動も始めた。同年、雄勝中学校と連携し、仮設住宅の談話室を活用した雄勝中学全生徒を対象とした「アフタースクール」や夏期・冬季講習、子どもたちが遠く離れた故郷にもどるきっかけにと始めた漁業体験などの体験学習が石巻市内の小中学校に広がり、震災から2年半でのべ4,000人が参加した。

また体験を通じた「学び」を中心に、子どもたちのための寺子屋である「おがつアカデミー」が2012年から本格始動した。

その後、2012年11月には公益社団法人に改組し、石巻市



## ■受賞者の概要

活動年数：4.5年

活動を担う人材の数：9人（うち専属スタッフ7名）

売上実績：年間約3,200万円、累計約5,000万円

参加者数：年間約2,500人、累計約5,000人

## ■写真の説明

- ・(写真上) 大谷地小学校の漁業体験「ホタテの水揚げ」。
- ・(写真左下) おがつキッチンvol.5「おがつピザのメニューを開発」。
- ・(写真右下) 雄勝学校再生プロジェクトの校舎改修イベント。

雄勝町を拠点に石巻地方の地域資源を生かした幅広い学びの場を提供。

子どもたちがさらにたくましく成長するきっかけとするために、故郷の豊かな自然や漁業・農業・林業を体験し感じて、地域の人を通じて、水の循環や自然の循環を学ぶプログラムを漁師など地元の方々と共に運営している。

さらに、築92年の廃校を活用し2015年夏にオープンした子どもたちの複合型施設モリウミアス（森と、海と、明日へ）では7名の雇用も創出している。この施設は、田舎のこどもに都市部のこども、日本のこどもに海外のこどもを混ぜ7泊8日の共同生活を通じて多様性を学び、農林水産業など一次産業や自然を体験し、地域と人に触れ、持続可能な社会を創る人材を育てる学びの場であり、「世界へのゲートウェイ」、「世界からゲートウェイ」、となるグローバルで新しい地域づくりを目指している。

地域資源活用・雇用創出・地域経済貢献・地域活性化・サステナブルラーニングといったキーワードの拠点となり、行政や教育委員会、企業など多くの視察者も訪れている。



推薦団体：総務省（平成26年度ふるさとづくり総務大臣賞）



# オーライ!ニッポン フレンドシップ賞

しょうばらし たかのちいき みらいじゅく  
庄原市高野地域づくり未来塾

しょうばらし  
(広島県庄原市)

農山漁村イキキ実践部門



## ■受賞の内容

庄原市は、広島県の北東部にある人口約38,000人の地方都市で、2005年3月に1市6町が合併して誕生した。

市民組織「庄原市高野地域づくり未来塾」は、中国横断自動車道開通に伴うまちの活性化推進事業を進めていくために2008年9月に発足した。

高野地区は周囲を1,000m級の山々に囲まれた高原地帯であるため、冬期間は深い雪に閉ざされ陸の孤島とも言われてきた。こうした厳しい地理的条件の地域に高速道路が整備されインターチェンジも設置されることになり、その付近に「道の駅」を整備する計画が持ち上がった。このため、未来塾は魅力的な道の駅とするためにワークショップを行い、地域にマッチした道の駅の構想をまとめ「徹底的に地元産にこだわる」というコンセプトを庄原市に提言した。

道の駅は2013年4月にオープンし大変な活況を呈している。初年度は、当初見込みの2倍以上となる4億8千万円の売り上げ、3年目となる2015年は、尾道松江線（通称：中国やまなみ街道）の全線開通により瀬戸内や四国方面からの来館者も増え、初年度を上回る売り上げを実現した。



## ■受賞者の概要

活動年数：7年

活動を担う人材の数：26人

売上実績：年間約2億4千万円、累計約6億8千万円（道の駅たかのにおける高野の逸品を含んだ加工品の販売額）

参加者数：年間約1,400人（鍋&漬物グランプリ）、累計約3,600人

## ■写真の説明

- ・(写真上)平成25年4月にオープンした『道の駅たかの』。
- ・(写真左下)『高野の逸品カタログ』とギフト販売チラシ。
- ・(写真右下)『第6回雪合戦鍋グランプリ』の開催状況。

冬場や春先には出荷する農産物は何もない状況であったので、未来塾では年間を通じて販売ができ特産品にもなる加工品の開発を「高野の逸品100プロジェクト」と銘打って取り組むこととした。一次産品を出荷するだけでもそれなりの収入があることから、加工まですることには面倒であるとなかなか理解が得られなかったが、プロのアドバイスや先進地の成功事例の研修などを重ねる中で、加工品の魅力を少しずつ理解してもらえるようになり、店頭に並ばないB級品を加工に活かすことが新たな収入源となることに加えて、農産物を無駄なく販売することが農家の生産意欲にも結び付いている。

逸品の開発は、2014年度末には100品目の目標を達成し、105品目の逸品を認証することができた。また、加工品を製造・販売する新たな会社も設立され、雇用の場の確保にも繋がっている。

2015年度からは農家民泊や体験メニューを提供する協議会と連携して教育旅行の本格的な受け入れを実施するなど、活動の幅を広げている。



推薦団体：国土交通省（平成27年度地域づくり表彰）



# オーライ!ニッポン フレンドシップ賞

くら しき 倉敷まちなか居住『くるま座』有鄰庵

(岡山県倉敷市)



## ■受賞の内容

NPO法人 EarthCubeJapanが運営している岡山県倉敷市のくるま座有鄰庵は、「築100年の古民家に滞在しながら町家の生活が味わえます」をコンセプトに、国内外の様々な人との交流を楽しめる古民家を活用したゲストハウスである。世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」のエクセレンス認証を2年連続で受賞している。

ゲストハウスにゲストを囲うのではなく周辺の店などの情報も紹介し、町の散策や住民との会話を楽しむことにより、倉敷の情緒と文化を味わってもらうことを心がけている。併設するカフェでは地元農家の農作物を使ったメニューの提供や朝市の開催等の、利用者と農家とが交流するような取り組みを行っている。

ゲストハウスやカフェは世界52カ国から5万人以上に利用され、ゲストハウスの稼働率は連日ほぼ100%となるなど短期間で大きな成果をあげているほか、ゲストハウス等の運営を担うための1ヶ月程度の長期滞在者は年間20人以上、移住者は10人以上にのぼり、それぞれが倉敷の魅力を発信する活動を行っている。

また、「高梁川(たかはしがわ)の水を基軸としたくらしたび」をコンセプトに、農家等と連携して普通の観光では体

## ■受賞者の概要

活動年数：3年

活動を担う人材の数：20人（うち専属スタッフ4名）

活動日数：365日

参加者数：年間5万人、累計約15万人

年間の売上：3,000万円 累計1億円

## ■写真の説明

- ・(写真上) 有鄰庵外観。
- ・(写真左下) くるま座交流。
- ・(写真右下) い草収穫体験ツアー。

験できないコンテンツを開発している。

例えば、岡山県都窪郡早島町はかつてい草の生産量日本一を誇ったが、現在は農家が一件も無くなってしまった。そこで早島町にゲストハウスいぐさを開設し全国からボランティアを集め、地元農家等の指導のもとい草栽培に挑戦。収穫したい草を使った手織り体験を世界中から集まるゲストに楽しんでもらっている。

また、ゲストハウスを核とした地域コミュニティづくりに興味がある人のための「地域に必要とされるゲストハウス開業合宿」をこれまでに計11回開催するほか、地域で活躍したい人を対象にした「地域で生業(なりわい)を創る」セミナーをこれまでに計4回開催しており、これまでの活動を通じて得られた、地域の魅力を世界に発信し地域に人を呼ぶためのノウハウを伝える活動も行っている。

これからも「地域の魅力を世界に発信」「経済の豊かさを超える心の豊かさの追求」「伝統文化を活かし未来につなげる」をコンセプトに、地方の魅力を掘り起こし発信しながら、世界のモデルになる心豊かなライフスタイルの追求し、より多くの人々が真の意味での「豊かな生き方」を実現していくための活動を目指している。



推薦団体：観光庁（第3回「今しかできない旅がある」若者旅行を応援する取組表彰）



# オーライ!ニッポン フレンドシップ賞

こう えき ざい だん ほう じん あ そ ち い き し ん こう  
公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター (熊本県阿蘇市)

農山漁村イキキ実践部門



## ■受賞の内容

阿蘇地域振興デザインセンターは、「阿蘇」が熊本県の貴重な地域資源であるとの認識のもと、阿蘇地域内の住民を含めた観光、エコツーリズム、農林業、行政等のさまざまな関係者との連携により、地域振興、観光振興、環境・景観保全、情報発信を広域で取り組むための組織として、1990年に財団法人「阿蘇環境デザインセンター」として発足した。その後1998年に名称を阿蘇地域振興デザインセンターに変更、2013年に公益財団法人となっている。

旧阿蘇郡12町村と熊本県が30億円を出捐し、その運用益で事業を推進している。

「スローな阿蘇づくり・阿蘇カルデラツーリズム」を核に、滞在交流型の観光地域づくりを推進中である。また、観光圏整備法による「阿蘇くじゅう観光圏」のコーディネートや、阿蘇ユネスコジオパークの事務局もやっている。

阿蘇エコツーリズムの牽引役として活動している阿蘇自然案内人（阿蘇自然案内人協会の会員等のベテランのガイ



## ■受賞者の概要

活動年数：25年

活動を担う人材の数：6人（うち専属スタッフ6名）

主な活動エリア：熊本県阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町（旧蘇陽町）

来場者数：年間1,800万人 累計4億5,000万人

## ■写真の説明

- ・(写真上) 大観峰ジオツアーの催行。
- ・(写真左下) 子ども農山漁村交流プロジェクトで体験学習の様子。
- ・(写真右下) 阿蘇ジオパークガイド英会話講座の開催。

ド)による地域の自然・歴史・文化の紹介を充実させるとともに、農家民泊や農家レストラン、農業体験などを通して地元住民と交流したり、商店街や温泉街などで食べ歩きや散策を楽しんだりするなど、地域の生業や日常生活と観光を結びつけた事業を活発に展開している。

滞在交流型の旅を提供するため、問合せ等に適切に対応する地域コンシェルジュの確立が必要であることから、阿蘇くじゅう地域コンシェルジュ育成研修事業により各市町村単位にある観光インフォメーション機能や地元旅行会社などを地域コンシェルジュとして育成するための研修会を開催している。また、本研修会では、各エリアでの現地研修などを取り入れることにより、情報共有を図るとともに横の連携による受入れ体制の強化も目指している。

2014年度には阿蘇地域が国内7件目の世界ジオパーク認定を受け、こうした活動により、2015年1月に環境省のエコツーリズム大賞「特別賞」を受賞した。



推薦団体：環境省（第4回エコツーリズム大賞優秀賞）



# オーライ! ニッポン ライフスタイル賞

循環型 半「米農家」ディレクター <sup>やま</sup>の <sup>てる ひろ</sup> 山野 晃弘 さん (48才) (千葉県木更津市 <sup>きさらづし</sup>)



## ■受賞の内容

山野さんは、高校卒業まで京都で過ごし進学を機に上京。大学卒業後にビル仲介や家賃保障を行う不動産会社に就職した。その後、不動産情報販売会社を立ち上げ経営を行うかたわら、学生時代からアルバイトで関わっていたテレビ番組制作の仕事も本格的に始めた。番組ディレクターの仕事が多忙となるに伴い不動産情報会社の経営権を譲渡し、ディレクター一本で生きていくことを選択した。

2003年に結婚し翌年には第一子が誕生。妻の妊娠をきっかけに添加物や農薬など食の安全性に関するトピックスに強い関心を抱くようになる。

そのような中、妻の出産時期に同じ産院に通っていた木更津市出身の仲村さん夫婦と知り合い、食の安全などを情報交換するうちに意気投合し、自分たちで米を作ってみようかということになった。2005年3月から仲村さん家族と共に千葉県いすみ市に無農薬栽培の米作りを習いに通い始めた。

同年5月には木更津市の耕作放棄地を借りる話が舞い込み、仲村さんの弟夫婦も加わり3家族で「不耕起栽培」で4aの農地で無農薬の米を栽培したところ、収穫したお米の美味しさに思わず感動した。

その後東京都世田谷区からの通いで米作りを行っていたが、2010年に競売物件を木更津市矢那に見つけたことを



不動産会社、テレビ番組ディレクター、食の安全、不耕起栽培、無農薬のコメ作り、移住物件の競売、WWOOFと時代のキーワードを先取りしドラマのような生き活きとしたライフスタイル。今後の活躍も大いに期待されます。

## ■受賞者と農山漁村との関わり

【農山漁村へ移住】(4.5年)

競売物件の落札者と交渉して所有権を自身のものに。木更津の地へ住居を構えることとなった。「不耕起栽培」で4aの農地で無農薬の米を栽培。

【地域での実践活動】(4.5年)

## ■写真の説明

- ・(写真上) 家族でお米の収穫をする山野さん。
- ・(写真左下) 山野さんのたんぼカフェ。
- ・(写真右下) WWOOFで山野家に来訪された外国人。

きっかけに落札者と交渉し、同年3月には所有権を自身のものとすることに成功した。家の補修も行い2011年3月に木更津の地へ住居を構えた。移住後のある日、家の近くでホテルを見つけ、木更津の豊かな自然に感動しつつ「ここを綺麗にしていくことで日本中に存在する問題の解決の糸口を見つけれられるかもしれない」と思った。

このような問題意識もあり、2013年からWWOOF制度(ホストが3食寝泊りする場所を提供するかわりにウーファーと呼ばれる利用者が有機農場で1日6時間の農作業を実施)を2013年から導入した。羽田と成田のどちらからもアクセスが良いことから受入数も伸び、約3年で150名ほどの外国人を受け入れた。常時3名程度のウーファーと生活をともにし、原則2週間でサイクルを回している。現在、彼らウーファーの間での口コミが話題を呼び、7割の応募者を断らざるを得ないほどの人気を誇っている。また、2015年4月からは、木更津産高付加価値農産物のPRや都市と農村の交流活性化を目指し「きさらづアグリフーズ推進協議会」を立ち上げ初代会長に就任している。

テレビ番組ディレクターの仕事を段階的に減らして週1~2回ほど東京都内に通う生活を行いながら、春先から秋の平日は米作りに精を出し、土日はマルシェイベントに出店するなどの忙しい日々を過ごしている。





# オーライ! ニッポン ライフスタイル賞

NPO法人南房総リパブリック理事長 **馬場 未織さん** (42才) (東京都世田谷区)



## ■受賞の内容

馬場さんは1973年東京都生まれ。1998年に大学院修了後、建築設計事務所勤務を経て現在建築ライターをしている。プライベートでは2007年より家族5人とネコ2匹、そのほかその時に飼う生きものを連れて「平日は東京で暮らし、週末は千葉県南房総市の里山で暮らす」という二地域居住を実践するため、千葉県南房総市の旧三芳村に8,700坪の農地を購入し農作業を行うとともに、土手の草刈りなど地域の協働作業などは必ず参加している。

田舎暮らしを始めた理由は、生き物大好きな子どもの発する自然への欲求に応えたくても東京で子どもが満足するアクティビティを考えるとかなりのコストがかかる、それならば自然がいっぱいで週末に通える田舎暮らしも良いのではないかと考えたためである。子どものためにと言いながら、都会での暮らしと、人間の恣意的なデザインの世界を逸脱した場所での暮らしを求めて二地域居住に取り組んでいる。

田舎暮らしをはじめたころ、自給自足はコストパフォーマンスが悪いからと興味がなかったものの、馬場氏の農地に地域の人がジャガイモの種芋を植えてくれたことから雑草をとるなどしているうちに、徐々に愛着が出てきて畑作業が面白くなり、農業に30歳過ぎてはまることになった。



## ■受賞者と農山漁村との関わり

### 【二地域居住】(9年)

東京都世田谷区と千葉県南房総市を行き来する二地域居住を実践。

### 【地域での実践活動】(5年)

南房総市の活性化のため、NPOを立ち上げ都市との交流事業を実践。

## ■写真の説明

- ・(写真上) 週末は家族とネコとともに田舎暮らし。
- ・(写真左下) 綺麗な景観を守るため、土手の草刈りの協同作業も参加。
- ・(写真右下) NPOが実施した里山学校で南房総の有機野菜の食材により地元農家の方がつくった昼食。

そして、農産物は新鮮さが最高の味だったと、本当の贅沢に気付いた。東京と南房総を通算約250往復以上する暮らしの中で、里山での子育てや里山環境の保全・活用、都市農村交流などを考えるようになり、2011年に農家や建築家、教育関係者、造園家、ウェブデザイナー、市役所職員らと共に任意団体「南房総リパブリック」を設立し、2012年にNPO法人化。現在は理事長を務めている。NPO法人の活動では、①南房総の外に魅力を伝えるための洗足カフェ(南房総の野菜を活用した料理店、毎日シェフが変わる)②コアなファンを育てるための里山学校(親子で自然学習、自然体験ができる)、③拠点を作るための三芳つくるハウス(使う人がつくる場所)の3事業に取り組んでいる。

また、南房総市や東京大学新領域の清家研究室と協働で市内の空き家調査を進めたり、HEAD研究会との協働で民家の居住環境を高める断熱改修ワークショップなども開催している。

通算25回開催されている里山学校の体験プログラムは、地元の農家など知識や経験の豊かな方々を講師にして進めており、通算500人以上の参加者の約半分がリピーター。ニーズを読み取りながら内容をブラッシュアップし、深く長く続く都市農村交流を目指している。



平日は東京、週末は千葉県南房総市の里山で暮らすという二地域居住を実践し楽しんでいる。また農山漁村を守るために、地域や都会の仲間と一緒に体験や食を提供する機会を作るなど、二地域居住者だからできるライフスタイルを実践し、地域においても重要な役割を發揮している点が高く評価されました。



# オーライ!ニッポン ライフスタイル賞

上味見青年団 団長 伊藤 弘晃 さん (32才)

(福井県福井市)



## ■受賞の内容

伊藤さんは兵庫県宍粟市(旧一宮町)で生まれ、大学への進学と共に奈良県大和高田市へと引っ越しして都市生活を始めた。幼少期からキャンプなどの野外活動や自然での野遊びが好きで教師を目指していたこともあり、子どもの野外活動のボランティアをはじめた。入学して1年半後、大学の掲示板に福井のNPO法人自然体験共学センターのボランティア募集チラシがあり、これを機に福井に通うこととなった。大学院進学後もボランティアを続け始めて福井市上味見地区を訪れた。活動拠点が上味見生涯教育施設(旧上味見小学校)であったこともあり、月1~2回は必ず上味見を訪問して子どもの自然体験活動や地域の方との交流を主体的に行っていた。

大学院卒業後の進路について考えていた時、自然体験共学センターが福井県の2009年5月から都市と農村をつなぐ橋渡しの役割を担う都市農村交流員の配置を行う事業を受託することから、それに従事する職員として来ないかと声がかかった。以前より上味見地区での活動を学校卒業とともに終わるには忍び難くなっていたことから、今まで好きでやってきた活動をその地に住みながら本格的に取り組んでいきたいと思い、都市農村交流員として福井市上味見地区に移住することとなった。

移住当初は①子ども向け自然体験活動の企画・運営、②



## ■受賞者と農山漁村との関わり

【農山漁村へ移住】(6年)

月2回程度、週末に子ども対象の自然体験活動のボランティアとして農山漁村交流を3年ほど実践しその後移住。

【地域での実践活動】(6年)

## ■写真の説明

- ・(写真上) 伊藤 弘晃さん。
- ・(写真左下) じじくれ祭り。
- ・(写真右下) 河内赤かぶらの収穫。

福井県が進めるふくいエコ・グリーンツーリズム事業、③ 外者である若者の目線での上味見の地域づくりを行う「ふるさとまちおこし隊」活動を行った。「ふるさとまちおこし隊」は、上味見地区を第二のふるさとと感じる若者が主体となり、地域の人の協力も得ながら上味見地区のまちづくりを行う活動である。

その後、学校教育の中で行う自然体験活動や農林業体験を広域な地域で受入れために2010年「福井市自然体験交流推進協議会」が発足し、自然体験共学センターが事務局を担って受入体制を整備していた。2014年からは事務局機能を独立させることになったが、引き続き担当している。

上味見地区はほとんど若者が住んでいないため、上味見青年団は数十年前に消滅。地域外の若者で上味見地区を第二のふるさとと感じ、上味見地区で活動したいと思う若者「ふるさとまちおこし隊」が地域の人の合意を得ながら2011年9月に発足させたのが新しい「上味見青年団」であり、その団長となった。

日常の生活は、上味見地区に一軒家を借りて地域の方との交流を持ちながら、近くの農家の田んぼのお手伝いや昔ながらの山の斜面での焼畑農法によって河内赤かぶらを栽培している。また、一昨年には居住する集落の地区役員として集落機能の維持のために活動も行っている。



子どもの野外活動のボランティアを機に農山村に通いはじめ縁があって今の山村集落に移住。地域外の若者と地域住民の橋渡し役となり、青年団の団長として活躍している点が高く評価されました。



## 第13回オーライ！ニッポン大賞の概要

### ●趣 旨

都市と農山漁村の共生・対流に関する活動を行いながら、交流の拡大や地域活性化に寄与した団体・個人、及び都市と農山漁村双方の生活や文化を楽しむライフスタイルを実践している個人を表彰し、その活動を広くPRすることで農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルの普及推進を図ることを目的としています。

### ●表彰対象・審査基準

#### オーライ！ニッポン大賞

「都市側から人を送り出す活動」、「都市と農山漁村を結びつける活動」、「農山漁村の魅力を活かした受入側の活動」等を通じて、都市と農山漁村の共生・対流の拡大に寄与した実績や効果の高い団体又は個人。

#### (1) 募集の対象

- ・学生・若者カツヤク部門 主に30代までの若者の活躍により推進されている活動
- ・都市のチカラ部門 主に都市側からの働きかけによって推進されている活動
- ・農山漁村イキイキ部門 主に農山漁村側からの働きかけによって推進されている活動

#### (2) 表彰の種類

オーライ！ニッポン大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）1件

※オーライ！ニッポン大賞と、連携表彰事業から推薦される「オーライ！ニッポン フレンドシップ大賞」の中から1件が選ばれます。

オーライ！ニッポン大賞 3件程度

審査委員会長賞 5件程度

#### (3) 審査の基準

新規性	農山漁村地域を舞台とした新たなライフスタイルの提案、普及に関する取り組みであること。
独自性	地域固有の資源や個性を活かした、オリジナリティ豊かな取組みであること。
継続性	活動に多様な主体が参加・連携し、継続的な活動実績があること。
モデル性	他地域への応用や波及が期待できるモデル性の高い取組みであること。
効果性	農山漁村地域を活性化する効果があり、今後も効果が持続して発現すると見込まれること。

#### オーライ！ニッポン ライフスタイル賞

UJターンにより都市から移住した人、もしくは都市と農山漁村を行き来する二地域居住者等のうち、農山漁村において魅力的かつ新たなライフスタイルを実践し、都市と農山漁村の共生・対流に貢献している個人。

#### (1) 表彰の種類

ライフスタイル賞 3件程度

#### (2) 審査の基準

新規性	農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルを実践していること。
独自性	個性的で魅力のある活動であること。
継続性	新たなライフスタイルの実践に継続性があること。
モデル性	新たなライフスタイルが他の人の参考となるものであること。

#### オーライ！ニッポン フレンドシップ大賞・オーライ！ニッポン フレンドシップ賞

オーライ！ニッポン大賞の更なる普及を図るため、民間企業、民間団体、各省等が実施している表彰事業と連携し、オーライ！ニッポン大賞の趣旨に合致する案件の推薦枠を設けています。連携する事業主体から推薦された案件は「オーライ！ニッポン フレンドシップ賞」として表彰するとともに、その中から数件を「オーライ！ニッポン フレンドシップ大賞」として選定し、「オーライ！ニッポン大賞グランプリ」の候補とします。

## 第13回オーライ！ニッポン大賞審査委員会の構成

会長	安田 喜憲	ふじのくに地球環境史ミュージアム館長（オーライ！ニッポン会議副代表）
	井上 和衛	明治大学名誉教授
	岡島 成行	学校法人青森山田学園理事長、公益社団法人日本環境教育フォーラム副会長
	長岡 杏子	TBSテレビアナウンサー
	中村 達朗	一般社団法人日本旅行業協会理事長
	平野 啓子	語り部、かたりすと、大阪芸術大学放送学科教授（オーライ！ニッポン会議副代表）
	元石 一雄	NPO法人水と緑の環境フォーラム常務理事



# オーライ！ニッポン大賞受賞者一覧（第1回～第12回）

受賞回	都道府県	応募団体	表彰の種類	
第1回	長野県	飯田市	オーライ！ニッポン大賞 グランプリ（内閣総理大臣賞）	
	秋田県	たざわこ芸術村・わらび座	オーライ！ニッポン大賞	
	栃木県	石河 智舒	オーライ！ニッポン大賞	
	東京都	武蔵野市	オーライ！ニッポン大賞	
	三重県	農事組合法人 伊賀の里モクモク手づくりファーム	オーライ！ニッポン大賞	
	熊本県	九州ツーリズム大学	オーライ！ニッポン大賞	
	北海道	有限会社とかち自然体験学校	審査委員会長賞	
	千葉県	特定非営利活動法人大山千枚田保存会	審査委員会長賞	
	長野県	飯山市グリーン・ツーリズム推進協議会	審査委員会長賞	
	静岡県	特定非営利活動法人ホールアース研究所	審査委員会長賞	
	石川県	白山市観光情報センター（旧白山連峰合衆国事務局）	審査委員会長賞	
	三重県	水土里ネット立梅用水	審査委員会長賞	
	大阪府	特定非営利活動法人 里山倶楽部	審査委員会長賞	
	兵庫県	兵庫県子ども自然村	審査委員会長賞	
	和歌山県	色川地域振興推進委員会	審査委員会長賞	
	岡山県	上田西百姓王国	審査委員会長賞	
	山口県	園田 秀則	審査委員会長賞	
	高知県	特定非営利活動法人黒潮実感センター	審査委員会長賞	
	大分県	安心院町	審査委員会長賞	
	沖縄県	特定非営利活動法人 エコ・ビジョン沖縄	審査委員会長賞	
第2回	兵庫県	八千代町	オーライ！ニッポン大賞 グランプリ（内閣総理大臣賞）	
	北海道	北海道北オホーツクの大自然で学ぶ会	オーライ！ニッポン大賞	
	青森県	特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校	オーライ！ニッポン大賞	
	東京都	日本生活協同組合連合会	オーライ！ニッポン大賞	
	長野県	四賀村	オーライ！ニッポン大賞	
	愛媛県	からり直売所運営協議会	オーライ！ニッポン大賞	
	青森県	よこはまホテル村	審査委員会長賞	
	山形県	まほろばの里農学校	審査委員会長賞	
	東京都	新宿区立市谷小学校	審査委員会長賞	
	静岡県	掛川市	審査委員会長賞	
	新潟県	高柳町	審査委員会長賞	
	愛知県	NPO 法人グラウンドワーク東海	審査委員会長賞	
	宮崎県	西米良村	審査委員会長賞	
	沖縄県	東村	審査委員会長賞	
	第3回	青森県	南部町	オーライ！ニッポン大賞 グランプリ（内閣総理大臣賞）
		北海道	標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会	オーライ！ニッポン大賞
		東京都	特定非営利活動法人 地球緑化センター	オーライ！ニッポン大賞
	第3回	新潟県	越後田舎体験推進協議会	オーライ！ニッポン大賞
兵庫県		特定非営利活動法人 北はりま田園空間博物館	オーライ！ニッポン大賞	
高知県		特定非営利活動法人 NPO 砂浜美術館	オーライ！ニッポン大賞	
北海道		由仁町	審査委員会長賞	
青森県		特定非営利活動法人 尾上蔵保存利活用促進会	審査委員会長賞	
群馬県		片品村農業協同組合	審査委員会長賞	
和歌山県		ユニチカ労働組合	審査委員会長賞	
鳥取県		特定非営利活動法人 新田むらづくり運営委員会	審査委員会長賞	
熊本県		財団法人阿蘇グリーンストック	審査委員会長賞	
第4回		長崎県	特定非営利活動法人体験観光ネットワーク松浦党 松浦体験型旅行協議会	オーライ！ニッポン大賞 グランプリ（内閣総理大臣賞）
	岩手県	社団法人 葛巻町畜産開発公社	オーライ！ニッポン大賞	
	東京都	練馬区農業体験農園園主会	オーライ！ニッポン大賞	
	長野県	株式会社 ピッキオ	オーライ！ニッポン大賞	
	奈良県	曾爾村	オーライ！ニッポン大賞	
	大分県	宇佐市（安心院型グリーン・ツーリズムの新たな展開）	オーライ！ニッポン大賞	
	茨城県	特定非営利活動法人 古瀬の自然と文化を守る会	審査委員会長賞	
	長野県	NPO 法人グリーン・ウッド自然体験教育センター	審査委員会長賞	
	愛媛県	しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会	審査委員会長賞	
	第5回	高知県	幡多広域観光協議会	オーライ！ニッポン大賞 グランプリ（内閣総理大臣賞）
山梨県		特定非営利活動法人 えがおつなげて	オーライ！ニッポン大賞	
福井県		社団法人若狭三方五湖観光協会	オーライ！ニッポン大賞	
徳島県		伊座利の未来を考える推進協議会	オーライ！ニッポン大賞	
東京都		場所文化フォーラム（東京ノ十勝）	オーライ！ニッポン大賞 グランプリ候補	
静岡県		三島市	オーライ！ニッポン大賞 グランプリ候補	
北海道		特定非営利活動法人 自然体験村虫夢（むーむー） ところ昆虫の家	審査委員会長賞	
山形県		共生のむら すぎさわ	審査委員会長賞	
神奈川県		特定非営利活動法人 市村自然塾関東	審査委員会長賞	
石川県		輪島市「子ども長期自然体験村」実行委員会	審査委員会長賞	
第6回	岡山県	就実高等学校	審査委員会長賞	
	長崎県	有限会社 シュシュ	審査委員会長賞	
	長崎県	特定非営利活動法人 おぢかアイランドツーリズム協会	オーライ！ニッポン大賞 グランプリ（内閣総理大臣賞）	
	北海道	長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会	オーライ！ニッポン大賞	
	新潟県	NPOにいがた奥阿賀ネットワーク	オーライ！ニッポン大賞	
	大阪府	アストラゼネカ株式会社	オーライ！ニッポン大賞	
	鳥取県	特定非営利活動法人 学生人材バンク	オーライ！ニッポン大賞	
	岩手県	NPO 法人 体験村・たのはたネットワーク	審査委員会長賞	
	東京都	特定非営利活動法人 NICE（日本国際ワーク キャンプセンター）	審査委員会長賞	
	長野県	大北農業協同組合	審査委員会長賞	



表彰回数	都道府県	応募団体	表彰の種類
第6回	和歌山県	すさみ町商工会・都市と農山漁村交流事業推進委員会	審査委員長賞
	徳島県	坂本グリーンツーリズム運営委員会	審査委員長賞
	茨城県	おおせ元気っ子クラブ	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
	岐阜県	下呂温泉旅館協同組合	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
	沖縄県	特定非営利活動法人 島の風	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
	第7回	新潟県	大地の芸術祭実行委員会
秋田県		秋田発・子ども双方向交流プロジェクト推進協議会「子どもの輝き応援団」	オーライ!ニッポン大賞
東京都		地域づくりインターンの会	オーライ!ニッポン大賞
静岡県		松崎町石部地区棚田保全推進委員会	オーライ!ニッポン大賞
和歌山県		農業法人 株式会社 秋津野	オーライ!ニッポン大賞
福井県		かみなか農楽舎	審査委員長賞
兵庫県		特定非営利活動法人 ふるさと応援隊	審査委員長賞
高知県		黒潮カツオ体験隊	審査委員長賞
鹿児島県		柳谷自治公民館	審査委員長賞
沖縄県		有限会社 やんばる自然塾	審査委員長賞
山形県		遅筆堂文庫生活者大学校	オーライ!ニッポンフレンドシップ大賞
山形県		置農 MOTTAINAI プロジェクトチーム (置賜農業高等学校内)	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
埼玉県		特定非営利活動法人 生活工房 つばさ・遊	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
神奈川県		神奈川県 三浦市 株式会社三浦市の営業戦略「みうらシティ・セールス・プロモーション」	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
第8回	岩手県	ふるさと体験学習協会	オーライ!ニッポン大賞 グランプリ (内閣総理大臣賞)
	栃木県	特定非営利活動法人塩谷町旧熊ノ木小学校管理組合	オーライ!ニッポン大賞
	東京都	東京農業大学 多摩川源流大学	オーライ!ニッポン大賞
	三重県	財団法人 紀和町ふるさと公社	オーライ!ニッポン大賞
	奈良県	いこま棚田クラブ	オーライ!ニッポン大賞
	北海道	砥山農業クラブ	審査委員長賞
	静岡県	しずおか体験教育旅行	審査委員長賞
	愛知県	NPO 法人 豊田・加茂 菜の花プロジェクト	審査委員長賞
	三重県	いなべ市農業公園	審査委員長賞
	兵庫県	特定非営利活動法人 いえしま	審査委員長賞
	高知県	いなかインターンシップ	審査委員長賞
	新潟県	特定非営利活動法人 かみえちご山里ファンクラブ	オーライ!ニッポンフレンドシップ大賞
	長野県	農業生産法人株式会社信州せいしゅん村	オーライ!ニッポンフレンドシップ大賞
	第9回	群馬県	財団法人新治農村公園公社
東京都		東京海洋大学 産学・地域連携推進機構	オーライ!ニッポン大賞
岐阜県		かしも木匠塾	オーライ!ニッポン大賞
沖縄県		社団法人伊江島観光協会	オーライ!ニッポン大賞
青森県		OH!! 鱒 元気隊	審査委員長賞

第9回	岩手県	NPO法人 遠野まごころネット	審査委員長賞
	山形県	東沢地区協働のまちづくり推進会議	審査委員長賞
	東京都	三菱地所株式会社	審査委員長賞
	島根県	島根県立浜田水産高等学校	審査委員長賞
	鹿児島県	NPO 霧島食育研究会	審査委員長賞
	岩手県	NPO 体験村・たのはたネットワーク	オーライ!ニッポンフレンドシップ大賞
	静岡県	みやこだ自然学校の会	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
	和歌山県	(社) 南紀州交流公社	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
	愛媛県	愛媛大学	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
	高知県	高知工科大学	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
第10回	宮城県	震災復興・地域支援サークル ReRoots	オーライ!ニッポン大賞 グランプリ (内閣総理大臣賞)
	千葉県	千葉市教育委員会	オーライ!ニッポン大賞
	静岡県	NPO 法人戸田塩の会	オーライ!ニッポン大賞
	島根県	(株) 巡の環	オーライ!ニッポン大賞
	福島県	NPO 法人シニア人財倶楽部	審査委員長賞
	福島県	ふくしまキッズ実行委員会	審査委員長賞
	東京都	NPO 法人銀座ミツバチプロジェクト	審査委員長賞
	大阪府	摂南大学ボランティア・スタッフズ	審査委員長賞
	高知県	NPO 法人土佐の森・救援隊	審査委員長賞
	第11回	岩手県	おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会
北海道		歯舞地区マリンビジョン協議会	オーライ!ニッポン大賞
山梨県		農業生産法人 (株) hototo	オーライ!ニッポン大賞
宮崎県		NPO法人五ヶ瀬自然学校	オーライ!ニッポン大賞
長野県		NPO 法人信越トレイルクラブ	審査委員長賞
福井県		小原ECOプロジェクト	審査委員長賞
愛知県		豊森実行委員会	審査委員長賞
島根県		鳩鷺げんぎな会	審査委員長賞
高知県		(一社) 西土佐環境・文化センター四万十楽舎	審査委員長賞
第12回		沖縄県	特定非営利活動法人 東村観光推進協議会
	山形県	中津川むらづくり協議会	オーライ!ニッポン大賞
	福島県	特定非営利活動法人 喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンター	オーライ!ニッポン大賞
	広島県	世羅高原6次産業ネットワーク	オーライ!ニッポン大賞
	鹿児島県	特定非営利活動法人 エコ・リンク・アソシエーション	オーライ!ニッポン大賞
	宮崎県	小川作小屋村運営協議会	オーライ!ニッポンフレンドシップ大賞
	山口県	株式会社 西京銀行	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
	三重県	鳥羽市エコツーリズム推進協議会	オーライ!ニッポンフレンドシップ賞
	石川県	石川県立大学「学生援農隊あぐり」	オーライ!ニッポン大賞 審査委員長賞
	滋賀県	NPO 法人 愛のまちエコ倶楽部	オーライ!ニッポン大賞 審査委員長賞



## ライフスタイル賞受賞者一覧 (第1回～第12回)

受賞回	都道府県	市町村	応募団体
第1回	山梨県	北杜市	曾根原 久司
	富山県	朝日町	長崎 喜一
	富山県	南砺市	畠山 芳子
	岡山県	美作市	門田 進
	福岡県	八女市	中島 健介
	長崎県	五島市	石黒 宏
第2回	秋田県	能代市	野村 良子
	福島県	伊達市	赤間 真理子
	福島県	鮫川村	進士 徹
	岡山県	真庭市	徳永 巧
	山口県	下関市	新谷 哲雄
	沖縄県	石垣市	青木 三郎
第3回	山形県	鶴岡市	庄司 祐子
	長野県	信濃町	秋山 恵生
	岐阜県	下呂市	瀬古 育二・純子
	愛媛県	今治市	越智 資行
	沖縄県	与那国町	久野 雅照
第4回	北海道	鶴居村	服部 政人
	山口県	長門市	井上 義・和美
	高知県	禰原町	上田 知子
	高知県	いの町	中嶋 健造
	沖縄県	読谷村	田中 幸雄
第5回	青森県	十和田市	中野渡 利彦
	長野県	泰阜村	梶 さち子
	富山県	立山町	金木 美智子
	三重県	大台町	大西 かおり

第6回	秋田県	大仙市	川井 達弘
	高知県	禰原町	Rogier Uitenboogaart (ロギール アウテンボーガルト)
	熊本県	南阿蘇村	大津 耕太・愛梨
第7回	青森県	弘前市	田村 義夫・えり子
	広島県	神石高原町	見永 豊子
	長崎県	長崎市	金子 数栄
	大分県	九重町	鷲頭 栄治
第8回	島根県	奥出雲町	中村 成子
	山口県	阿武町	白松 博之
第9回	北海道	千歳市	小栗 美恵
	宮城県	石巻市	桶谷 敦
	愛媛県	愛南町	前田 アイ子
第10回	宮城県	七ヶ宿町	海藤 節生
	山口県	下関市	手嶋 眞二
第11回	宮城県	塩竈市	三浦 勝治
	長野県	小谷村	辰巳 和生
	山口県	山口市	嘉村 則男
	長崎県	五島市	濱口 孝
第12回	神奈川県	横浜市	畦田 堅持
	長野県	飯山市	柴田 さほり
	愛知県	豊根村	西井 浩隆
	山口県	周防大島町	泉谷 勝敏
	沖縄県	大宜味村	宮城 健隆





主催：オーライ！ニッポン会議(都市と農山漁村の共生・対流推進会議)、農林水産省

協賛：一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

後援：総務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、  
一般社団法人日本経済団体連合会、全国知事会、全国市長会、全国町村会

## オーライ！ニッポン大賞 事務局

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町45番地 神田金子ビル5階

TEL 03-4335-1985 FAX 03-5256-5211 ホームページ <http://www.ohrai.jp> E-mail [ohrai@kouryu.or.jp](mailto:ohrai@kouryu.or.jp)

「オーライ！ニッポン会議」の事務局を構成する21団体

(一財) 地域活性化センター	(公社) 全日本郷土芸能協会	(財) 日本青年館	(公財) 日本修学旅行協会
(公財) 全国修学旅行研究協会	(財) 育てる会	(公財) パブリックヘルスリサーチセンター	(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
(公社) 日本青年会議所	日本商工会議所	全国商工会連合会	(公財) 都市計画協会
(公社) 日本観光振興協会	(一財) 地域開発研究所	(公財) 日本離島センター	
(公社) 日本環境教育フォーラム	(一財) 農村開発企画委員会	全国水土里ネット(全国土地改良事業団体連合会)	
全国森林組合連合会	(一財) 漁港漁場漁村総合研究所	(一財) 都市農山漁村交流活性化機構	